

## はじめに

語句整序問題は、英文を構成する力や表現力を問うものとして出題されるが、受験生にとっては対策の立てにくい形式の1つである。日本語が与えられている場合と与えられていない場合では問題を解く負担感の違いはあるが、日本語が与えられることによってむしろ混乱を引き起こし、どういう意味の英文にすればよいのか見当がつかないこともよくある。また、選択肢の中に不要語が含まれていたり、不足語を補わなくてはならない問題であったりする場合は難易度が高まり、この形式を苦手とする受験生も少なくない。さらに選択する単語の品詞の問題とも直面する。名詞しかないと思っていた語が、実は動詞でも使われることがあるとか、あるいは、costのように現在形も過去形・過去分詞形も形が変わらない上に、名詞でも同じ形で使われるなどのことを確実にわかっていないと正解を導くのに苦勞する。苦手意識を克服し、抜けていた知識を身につける最善の方法は、300~400題程度の問題を解いて、様々な形式に慣れることである。同時に、独特の出題形式の問題を解くことによって、他の問題形式では見逃されがちなポイント、特に語順や文の構造などを確実に身につけることが肝要である。

本書では第1部と第2部に分けて構成している。第1部は語句整序問題を解くうえで必要とされる文法や語法の知識習得を目指し、第2部は和文対照型の実戦的問題の演習に取り組む。学習効果を最大限に期待できる問題を精選するとともに、解説とポイントをできるだけわかりやすく記述することを心がけた。本書を十分やりこなせば語句整序問題対策はかなりできたことになるはずである。本編第1部と第2部の間には最低限必要な文法をまとめている。それを見直すだけでもかなり役立つであろう。

諸君の健闘を祈る。

2024年10月吉日

編者記す

# 目次

## 〈第1部〉テーマ別語句整序問題

第1章	選択肢に1つの単語でいくつかの品詞として使える単語が含まれている場合	5
第2章	have、make、get、letなどの基本動詞が選択肢にある場合	11
第3章	to V、V-ing、V-edをどう使うべきか判断しなければならない場合	17
第4章	関係詞、接続詞、前置詞など、語句と語句あるいは節と節などをつなぐ語(句)が選択肢にある場合	31
第5章	it、themなどの代名詞が選択肢にある場合	41
第6章	比較の表現や比較の対象を考えなければならない場合	47
第7章	節と節などをつなぐ語(句)が選択肢にない場合	53
第8章	語順が通常の語順と異なっていたり、特殊な語順にしなければならない場合	61
第9章	文法的には成立していても意味的に成立しなかったり、あるいはその逆の場合	67
第10章	解答を導くのに苦勞する部分が含まれた場合	73
付録	基本的かつ重要な文法規則と語順に関する規則集	79

## 〈第2部〉形式別語句整序問題

第1章	日本語の情報を前提に、英文を組み立てていく場合	83
第2章	選択肢の中に不要な語(句)が含まれている場合	97
第3章	与えられた選択肢に、不足語を補って英文を完成させる場合	105

## 〈第1部〉 テーマ別語句整序問題

### 第1章 選択肢に1つの単語でいくつかの品詞として使える単語が含まれている場合

— 動詞として使うべきか、名詞として使うべきか、その他の品詞として使うべきかなどを考えなければならない場合 —

#### ◆この章の狙い◆

**offer, practice, answer, award, like** など、1つの単語に2つ、あるいはそれ以上の品詞が使える単語は少なくない。こうした単語が選択肢にある場合、文全体の中で、どういう品詞として使うべきかを考えなければならない。たとえば、選択肢に **view** があるとしよう。もし **view** が名詞としてしか使えないと思いついておくと、**view** を動詞として使わなければ英文が完成しない問題は解けないということになる。逆に、動詞としてしか使えないと思いついておくと、名詞として使わなければならない場合、解けないか、確信を持ってないまま並べ換えなければならないことになる。どの単語がどういう品詞として使えるかをすべて知っていることは、基本単語だけに限ってもそれほど簡単なことではない。

この章の語句整序問題を解いていくことによって、単語の品詞に対する意識を持つきっかけにしてほしい。この点に関する意識は、語句整序問題のみならず、英文読解問題、文法問題などを解く上でもかなり役に立つはずである。

**第1問** 次の問い(問1～3)において、それぞれ下の①～⑤の語(句)を並べ換えて空所を補い、文を完成せよ。ただし、解答は2カ所ある空所に入れるものの番号のみを答えよ。

問1 They are both good universities, so it's \_\_\_\_\_ **1** \_\_\_\_\_  
**2** \_\_\_\_\_ to accept.

- ① you                      ② up to                      ③ offer  
 ④ to decide                ⑤ which

問2 One must \_\_\_\_\_ **3** \_\_\_\_\_ **4** \_\_\_\_\_ class athlete.

- ① in order to              ② every day                ③ become  
 ④ a world                  ⑤ practice

問3 Ben is a kind and thoughtful man. He \_\_\_\_\_ **5** \_\_\_\_\_  
**6** \_\_\_\_\_ his old friends.

- ① most of                  ② touch                      ③ still keeps  
 ④ with                      ⑤ in

**第2問** 次の問い(問1～3)において、それぞれ下の①～⑤(あるいは⑥)の語(句)を並べ換えて空所を補い、文を完成せよ。ただし、解答は2カ所ある空所に入れるものの番号のみを答えよ。ただし、文頭に置かれる語句も小文字で与えられている。

問1 I should \_\_\_\_\_ **7** \_\_\_\_\_ \_\_\_\_\_ **8** \_\_\_\_\_ for a few  
 minutes.

- ① talk                      ② have                      ③ with you  
 ④ to                        ⑤ like                      ⑥ a

## 付録：基本的かつ重要な 文法規則と語順に関する規則集

凡例：1-1-3は、第1章-第1問-問3に関連箇所が出てくることを意味している。

◀**ルール1** most / all / none / some / any / many / one / enough などの語の後に of を用いると、< most of + 限定詞 + 名詞 > の語順となる。なお、限定詞とは、the / these / those / my / your などの語のことである。(1-1-3、7-5-1、6-1-1、10-2-2、2-2-3)

代名詞と共に使うときは、代名詞が< 限定詞 + 名詞 > の代わりにするので、most of them / all of these / both of us / which of you / which of us などのようになる。(4-4-1)

◀**ルール2** there / today / now / next door など、通常は副詞として使われる語が、名詞の後に置かれて直前の名詞を形容詞的に修飾する場合がある。(1-5-1)

◀**ルール3** to V および V-ing 形を not で否定するときは、not to V および not V-ing 形の語順にするのが原則である。(9-1-3、8-5-2、3-4-3、3-15-3)

◀**ルール4** 可算名詞は必ず、the proposal, the proposals, proposals, a proposal などのように、a / the と共に使うか、複数形にするか、his proposal などのように限定する語と共に使う。(1-4-3、9-3-2、2-3-3)

◀**ルール5** 目的格の関係代名詞 (which / that) は省略されるのが普通である。(9-4-1、7-1-1、7-1-2、7-1-3、7-4-2、7-6-1、7-7-1、7-8-2、7-8-3、6-6-2)

◀**ルール6** prove [think] that-節、tell O that-節など、動詞の目的語を導く that-節の that は、省略されることがよくある。(4-13-3、7-2-1、7-2-3、7-6-2)

また、< 同格用法 > の that が省略されることもある。(7-3-1)

◀**ルール7** so [such] ~ that ... の that は、省略されることがよくある。(7-2-2、7-3-2)

◀**ルール8** What a good idea of yours it is to go for a drive today! などの表現では、it is が省略されることがある。(7-3-3)

◀**ルール9** 主格の関係代名詞は通常省略できない。しかし、主格の関係代名詞でも後ろに be-動詞を従えていれば、一緒ならば省略できる。たとえば、which is / which are / that are などが共に省略されるのである。(7-5-1、7-5-2、7-5-3、7-8-1、8-5-3)

## 〈第2部〉形式別語句整序問題

### 第1章 日本語の情報を前提に、英文を組み立てていく場合

#### ◆この章の狙い◆

与えられている日本語の情報から英文を組み立てることは、現在の入試問題の主流である。日本語が与えられているので正解にたどり着くことが一見すると簡単そうに見えるが、日本語が与えられているからこそ、誤った英文を組み立ててしまう場合も多い。日本語に惑わされずに、日本語と英語の言語差を意識しながら、英語の文法や語法を正確に運用しなければならない。入試に頻出の問題を数多く解くことで、そうした問題にも慣れて、日本語に惑わされない英文の構成力を向上させてほしい。

## 問3 15 ① 16 ④

I had my wallet stolen when getting off the subway last night.

③ ① ⑥ ⑤ ④ ②

昨晚、地下鉄から降りるときに財布を盗まれてしまった。

**POINT1** 本問の **have O V-ed** は「O が～される」という意味で用いられている。

**POINT2** **get off O** で「O から降りる」となる。

**POINT3** when getting off the subway は when I was getting off the subway と考える。

## 問4 17 ① 18 ⑤

Don't inform any stranger of your credit card number no matter

② ① ⑥ ③ ⑤

how trustworthy he or she may seem.

④

どんなに信用の置けそうな人に見えても、知らない人にはあなたのクレジットカードの番号を教えるはけません。

**POINT1** Don't V で否定命令文「～するな」となる。

**POINT2** inform A of B で「A に B を知らせる」となる。

**POINT3** no matter how は (no matter how + 形容詞 [副詞] + SV) の語順で使われ、「S がどれほど～であろうとも」という副詞節を導く。

**POINT4** trustworthy は「信頼に値する」という意味の形容詞。

## 問5 19 ⑦ 20 ③

There is growing evidence that human activities are making global temperatures

① ⑦ ④ ⑤ ② ③

rise.

④

人間の活動が地球温暖化をもたらしているという証拠がますます増えてきている。

**POINT1** **evidence that S V** で「～という証拠」となる。

**POINT2** growing は名詞を修飾して「(数量・大きさ・程度・強さなどが) 大きくなる、増大する」となる。

**例** **growing** concern about environmental problems

「環境問題への関心の高まり」

**POINT3** **make O do** で「O に～させる」となる。